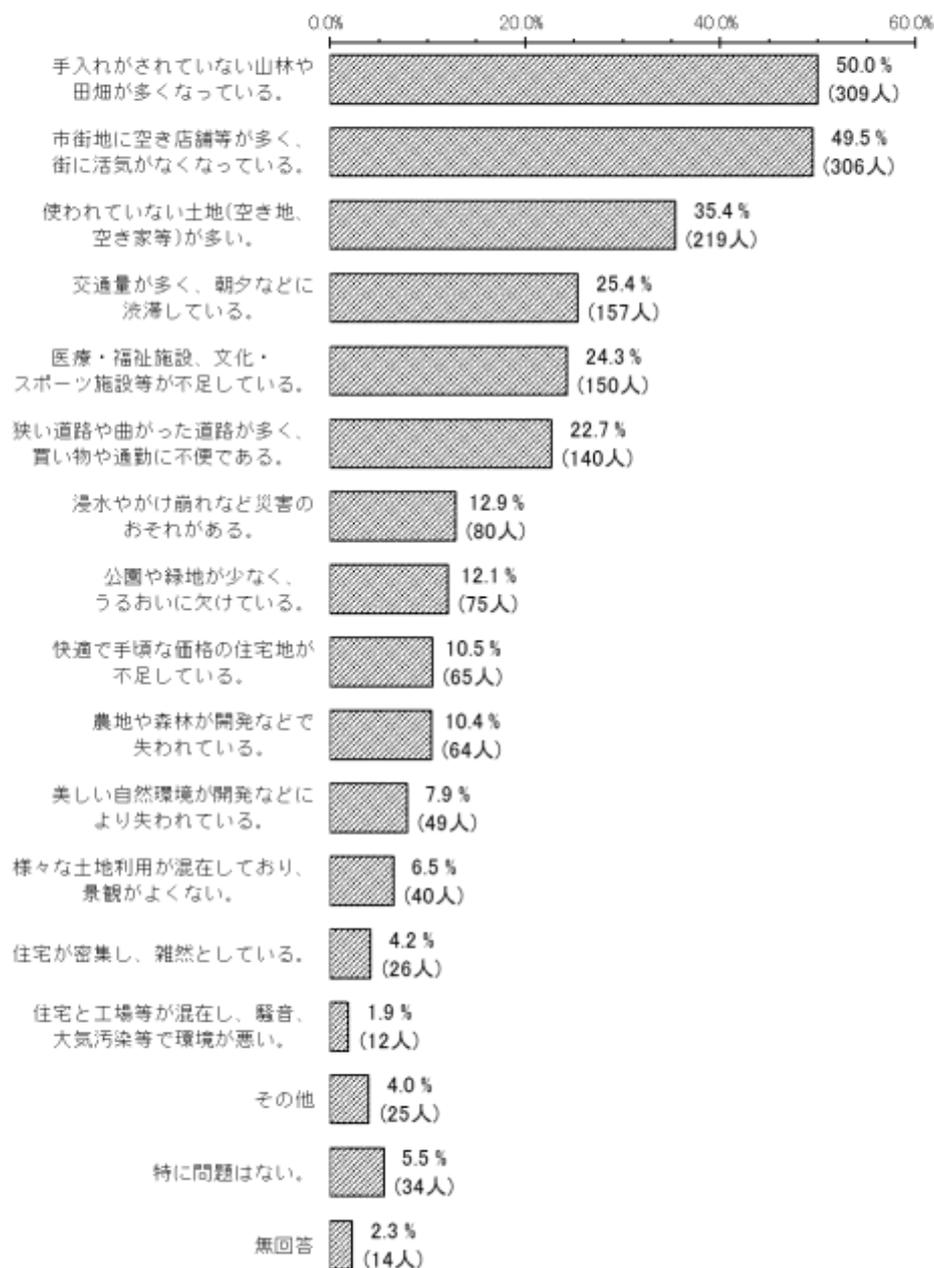


5. 土地利用について

(1) 土地利用の問題点

問10 あなたの住んでいる地域では、土地利用についてどのようなことが問題となっていますか。あてはまるもの4つまで○をつけてください。

全体
(n=618)

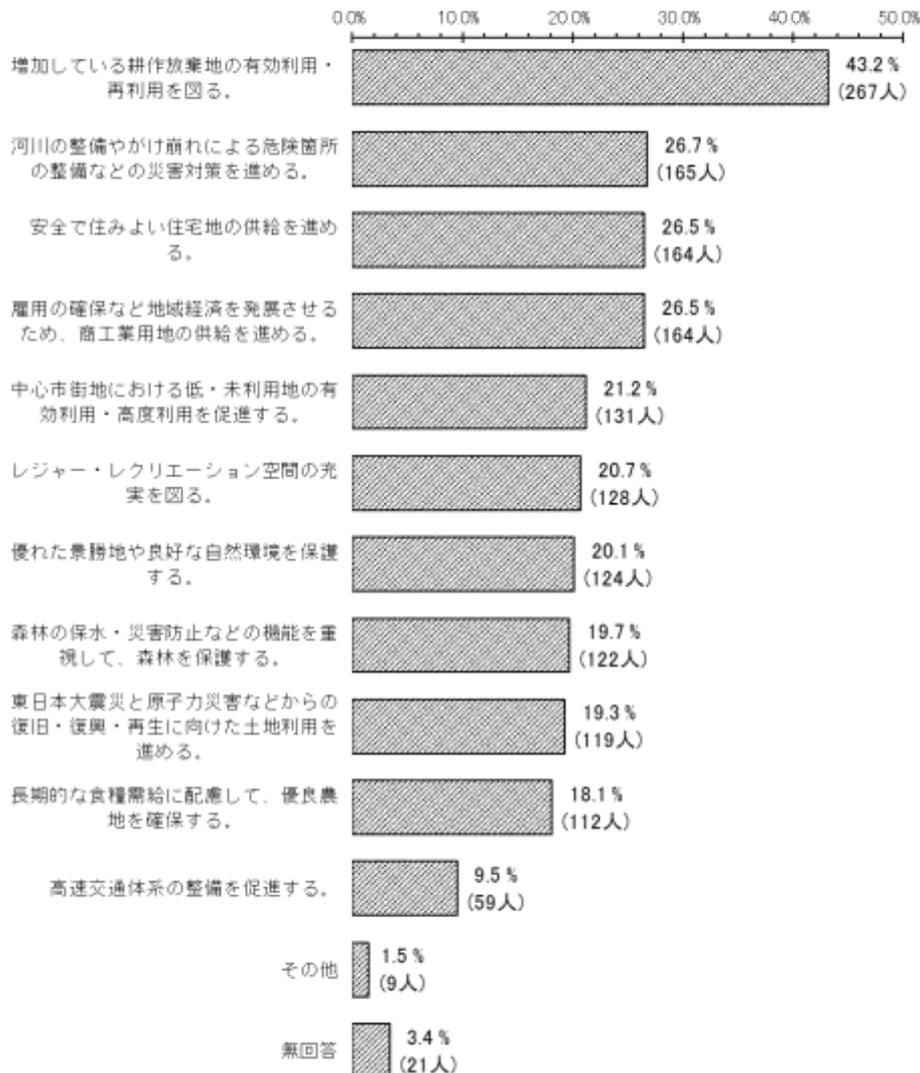


土地利用について問題となっていることは、「手入れがされていない山林や田畑が多くなっている。」(50.0%)が最も多く、次いで、「市街地に空き店舗等が多く、街に活気がなくなっている。」(49.5%)が約5割となっている。以下、「使われていない土地(空き地、空き家等)が多い。」(35.4%)が3割台、「交通量が多く、朝夕などに渋滞している。」(25.4%)、「医療・福祉施設、文化・スポーツ施設等が不足している。」(24.3%)と「狭い道路や曲がった道路が多く、買い物や通勤に不便である。」(22.7%)が2割台で続いている。

(2) 土地利用にあたり重点をおくべきこと

問 11 あなたは、今後の土地利用を考えるにあたって、特にどのような利用に重点をおくべきと考えますか。あてはまるもの3つまで○をつけてください。

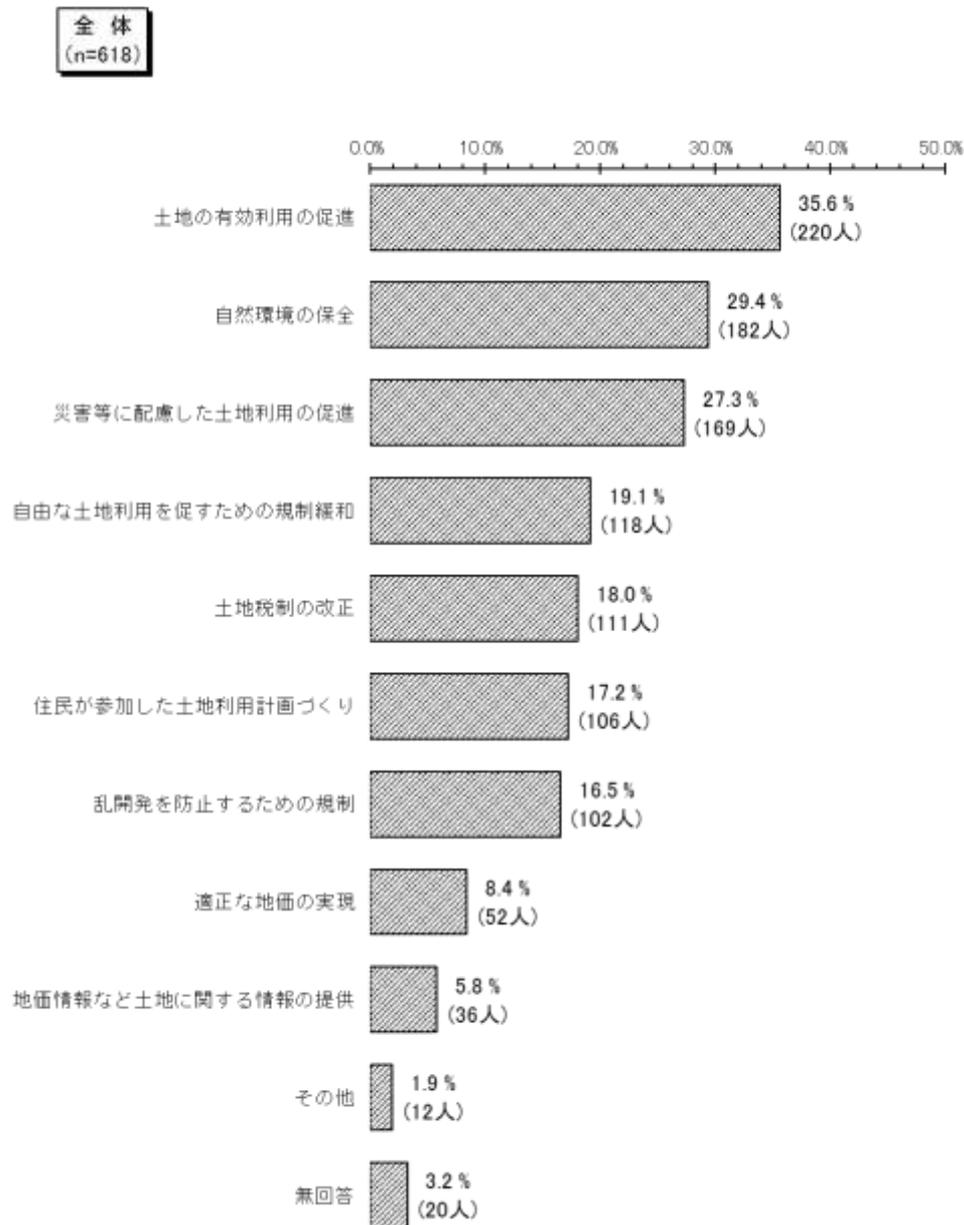
全体
(n=618)



土地利用にあたり重点をおくべきことについては、「増加している耕作放棄地の有効利用・再利用を図る。」(43.2%)が最も多く、4割台になっている。以下、「河川の整備やがけ崩れによる危険箇所の整備などの災害対策を進める。」(26.7%)、「安全で住みよい住宅地の供給を進める。」(26.5%)、「雇用の確保など地域経済を発展させるため、商工業用地の供給を進める。」(26.5%)、「中心市街地における低・未利用地の有効利用・高度利用を促進する。」(21.2%)、「レジャー・レクリエーション空間の充実を図る。」(20.7%)、「優れた景勝地や良好な自然環境を保護する。」(20.1%)が2割台で続いている。

(3) 重要と考える土地対策

問 12 行政は土地を有効に利用するための規制や制限等を行っていますが、あなたは、どのような土地対策が重要と考えますか。あてはまるもの2つまで○をつけてください。

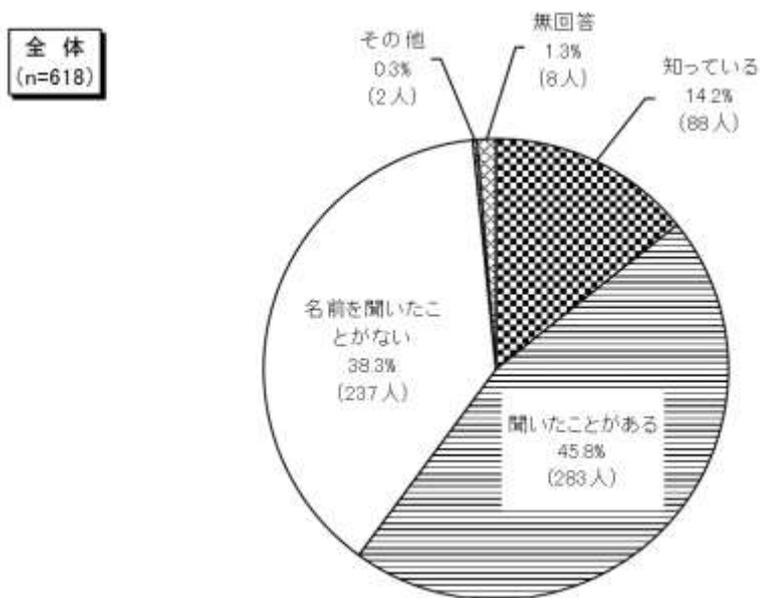


重要と考える土地対策は「土地の有効利用の促進」(35.6%)が最も多く3割台となっている。次いで、「自然環境の保全」(29.4%)、「災害等に配慮した土地利用の促進」(27.3%)が2割台となっている。以下、「自由な土地利用を促すための規制緩和」(19.1%)、「土地税制の改正」(18.0%)、「住民が参加した土地利用計画づくり」(17.2%)、「乱開発を防止するための規制」(16.5%)が1割台で続いている。

6. チャレンジふくしま県民運動について

(1) チャレンジふくしま県民運動の認知状況

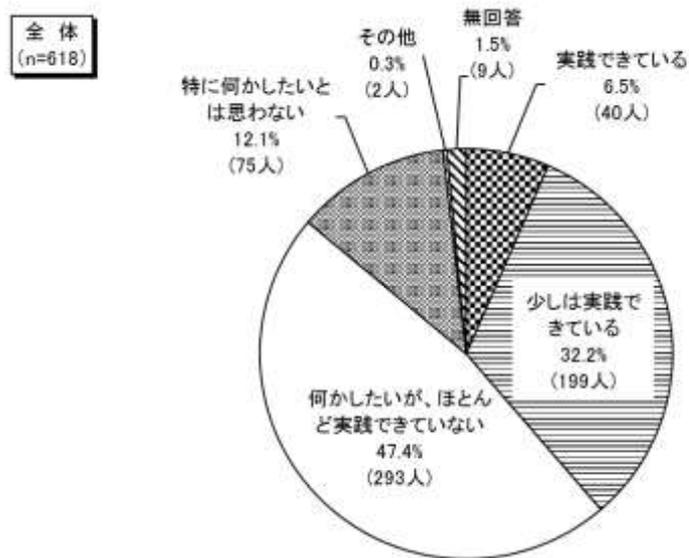
問13 「健康」をテーマとしたチャレンジふくしま県民運動について、最もあてはまるもの1つに○をつけてください。



チャレンジふくしま県民運動の認知状況については、「聞いたことがある」(45.8%)が4割台、「名前を聞いたことがない」(38.3%)が3割台、「知っている」(14.2%)が1割台となっている。

(2) 心身の健康づくりに対する実践状況

問 14 食、運動や文化活動など、最近の心身の健康づくりに関する実践状況について、最もあてはまるもの1つに○をつけてください。



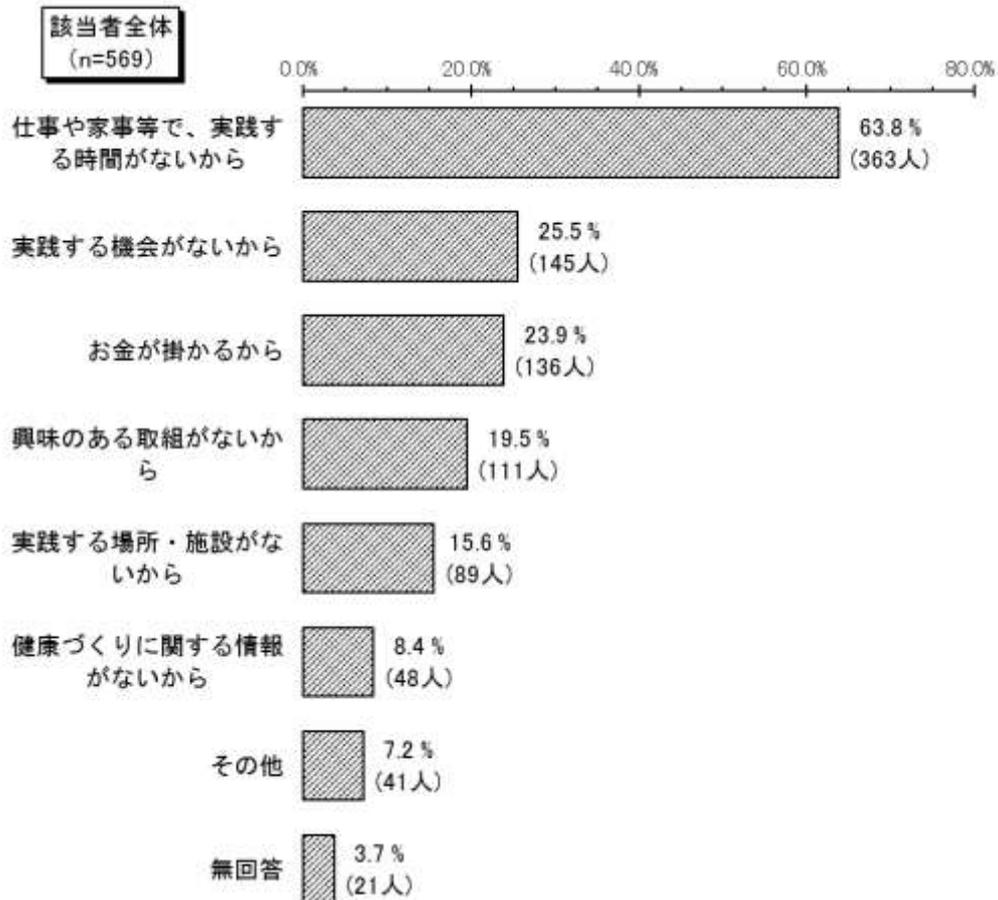
心身の健康づくりに対する実践状況については、「何かしたいが、ほとんど実践できていない」(47.4%)が最も多く、約5割となっている。以下、「少しは実践できている」(32.2%)、「特に何かしたいとは思わない」(12.1%)、「実践できている」(6.5%)となっている。

(3) 心身の健康づくりが実践できない理由

(問 14 で 2~5 に回答した方にお尋ねします。)

問 15 健康づくりが十分に実践できていない理由について選んでください。

あてはまるものにいくつでも○を付けてください。(複数回答可)



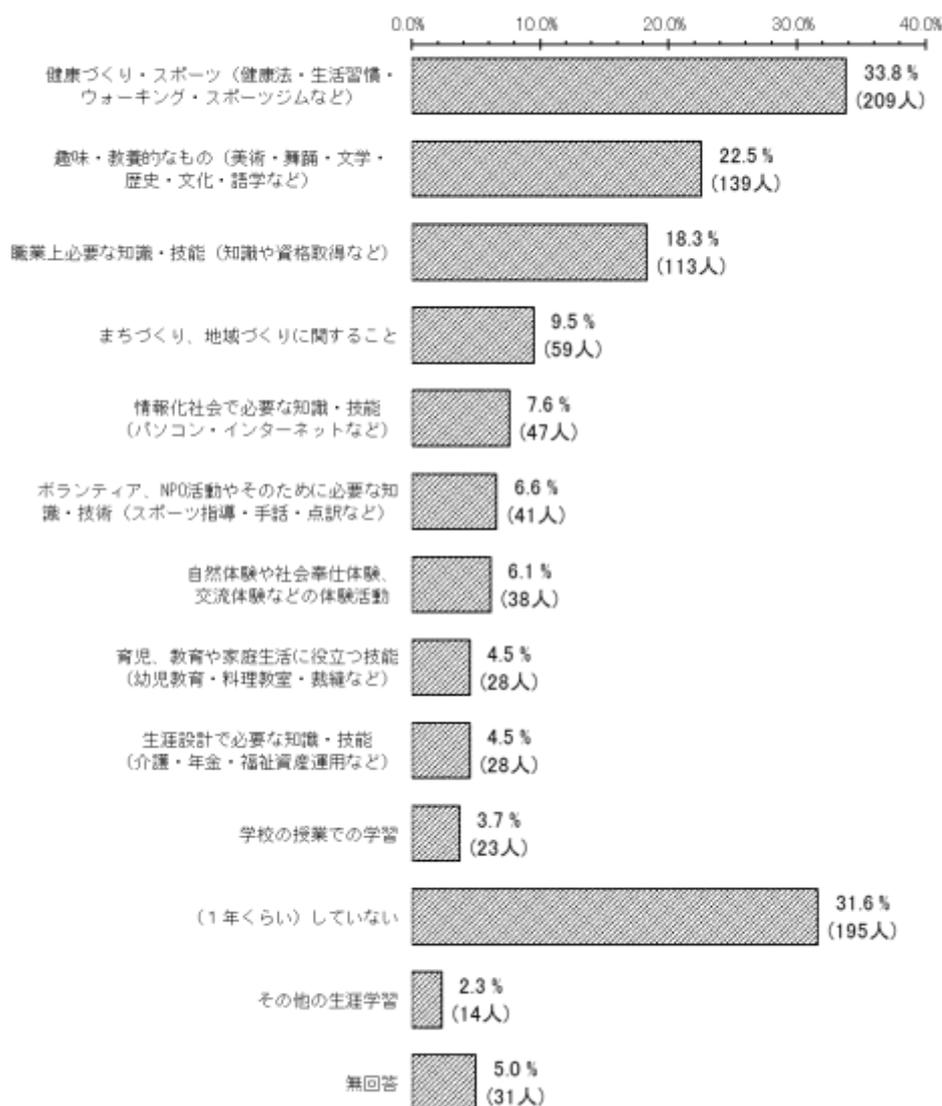
健康づくりが十分に実践できていない理由については、「仕事や家事等で、実践する時間がないから」(63.8%)が最も多く、6割台となっている。以下、「実践する機会がないから」(25.5%)、「お金が掛かるから」(23.9%)が2割台、「興味のある取組がないから」(19.5%)、「実践する場所・施設がないから」(15.6%)が1割台で続いている。

7. 生涯学習について

(1) 生涯学習の実施状況

問 16 あなたは、この1年の間にどのような「生涯学習」をしたことがありますか。
あてはまるものにもいくつか○をつけてください。(複数回答可)

全体
(n=618)



この1年の間に実施した「生涯学習」については、「健康づくり・スポーツ (健康法・生活習慣・ウォーキング・スポーツジムなど)」(33.8%) が最も多く、3割台となっている。以下、「趣味・教養的なもの (美術・舞踊・文学・歴史・文化・語学など)」(22.5%) が2割台、「職業上必要な知識・技能 (知識や資格取得など)」(18.3%) が1割台となっている。

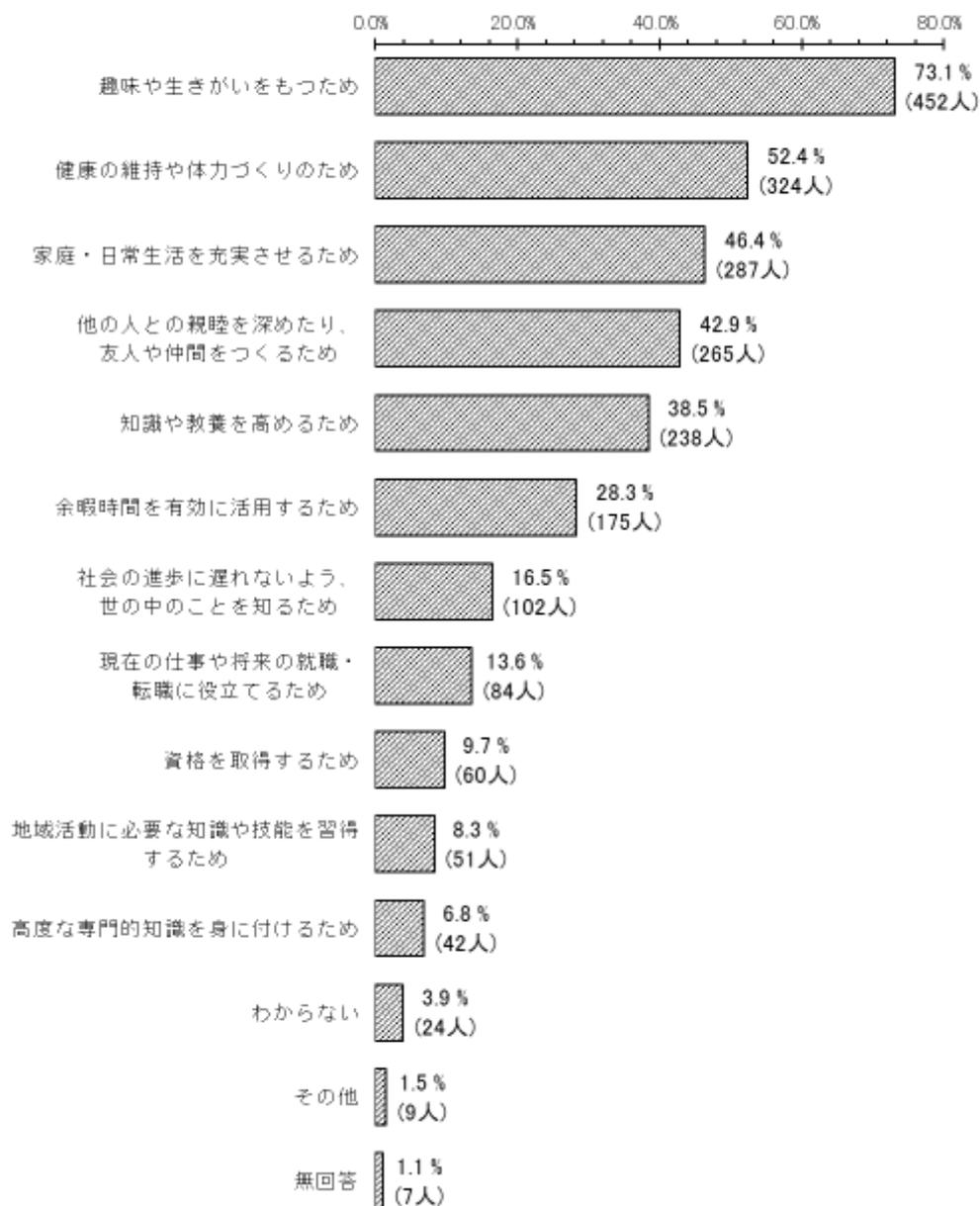
一方、「(1年くらい) していない」(31.6%) が3割台となっている。

(2) 生涯学習の目的・必要性

問17 あなたは、人生において、人々が「生涯学習」を行う目的・必要性は何だと思いますか。

あてはまるものにもいくつか○をつけてください。(複数回答可)

全体
(n=618)

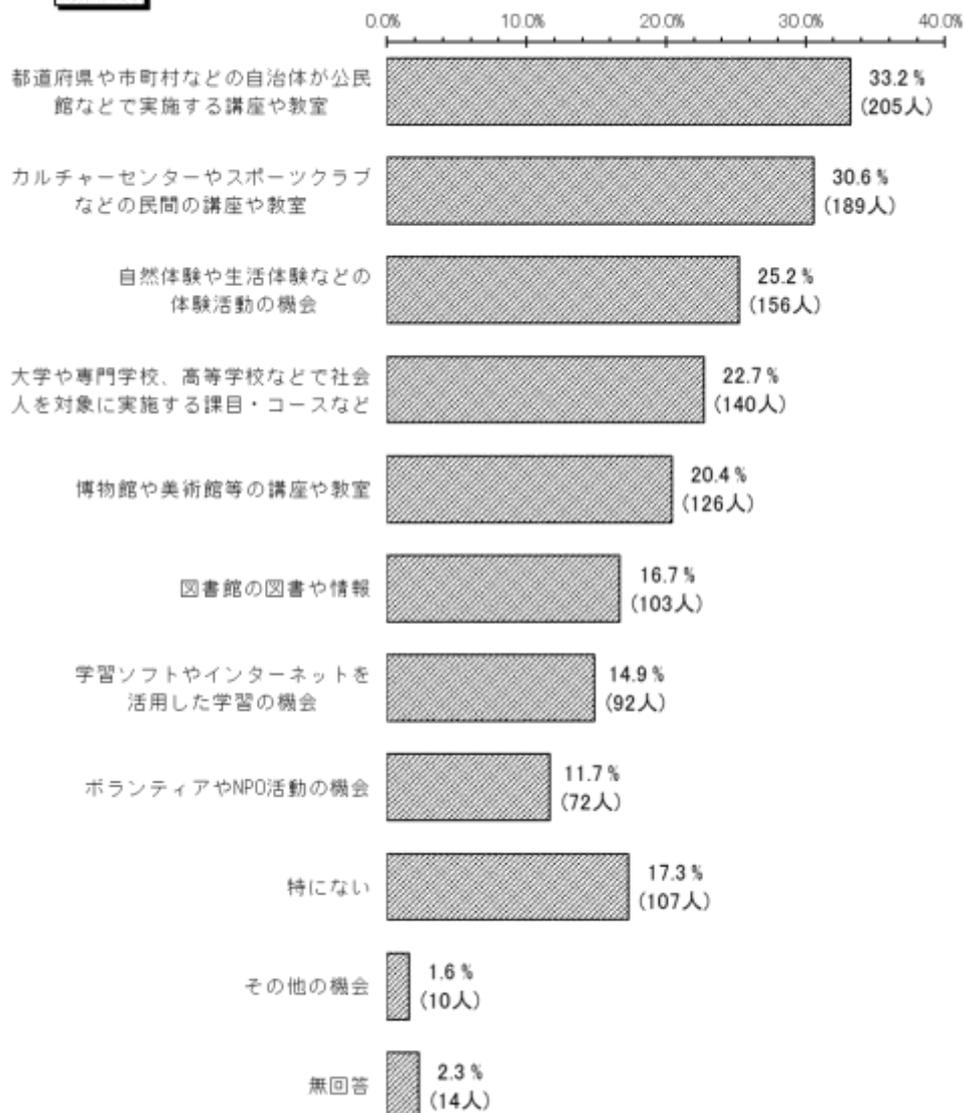


「生涯学習」を行う目的・必要性は、「趣味や生きがいをもつため」(73.1%)が最も多く、7割台となっている。次いで、「健康の維持や体力づくりのため」(52.4%)が5割台、以下、「家庭・日常生活を充実させるため」(46.4%)、「他の人との親睦を深めたり、友人や仲間をつくるため」(42.9%)が4割台、「知識や教養を高めるため」(38.5%)が3割台、「余暇時間を有効に活用するため」(28.3%)が2割台、「社会の進歩に遅れないよう、世の中のことを知るため」(16.5%)、「現在の仕事や将来の就職・転職に役立てるため」(13.6%)が1割台で続いている。

(3) 生涯学習を行う上で増えればよいと思う機会

問 18 あなたは、「生涯学習」を行う上で、どのような機会が増えればよいと思いますか。
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。(複数回答可)

全体
(n=618)

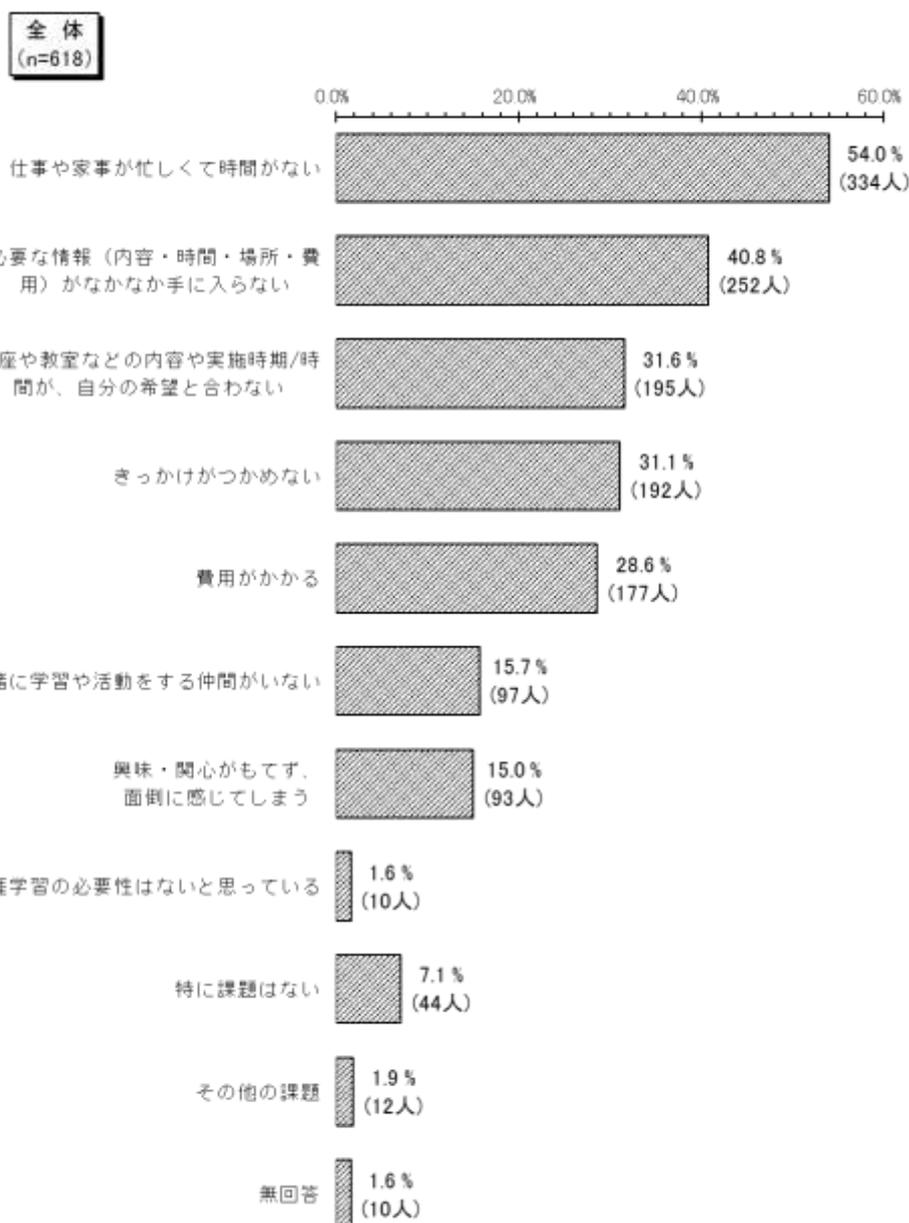


「生涯学習」を行う上で、増えればよいと思う機会は、「都道府県や市町村などの自治体が公民館などで実施する講座や教室」(33.2%)が最も多く、次いで、「カルチャーセンターやスポーツクラブなどの民間の講座や教室」(30.6%)が3割台となっている。以下、「自然体験や生活体験などの体験活動の機会」(25.2%)、「大学や専門学校、高等学校などで社会人を対象に実施する課目・コースなど」(22.7%)、「博物館や美術館等の講座や教室」(20.4%)が2割台が続いている。

一方、「特にない」(17.3%)が約2割弱となっている。

(4) 生涯学習を行う上での課題

問19 あなたが「生涯学習」を行おうとしたとき、どのような課題があると感じていますか。あてはまるものにもいくつかでも○をつけてください。(複数回答可)

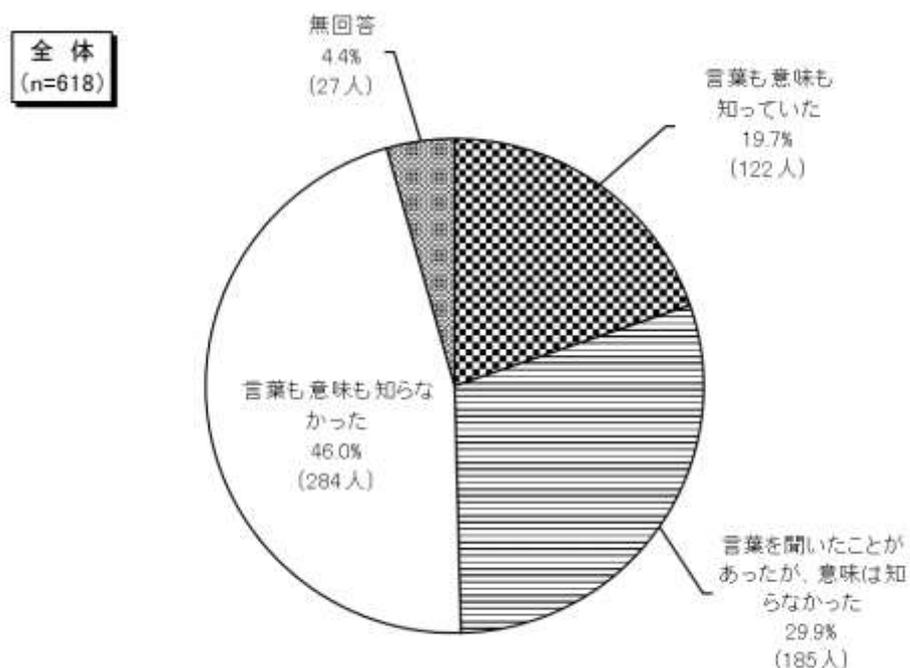


「生涯学習」を行う上での課題は、「仕事や家事が忙しくて時間がない」(54.0%)が最も多く、5割台となっている。次いで、「必要な情報(内容・時間・場所・費用)がなかなか手に入らない」(40.8%)が約4割となっている。以下、「講座や教室などの内容や実施時期/時間が、自分の希望と合わない」(31.6%)、「きっかけがつかめない」(31.1%)が約3割、「費用がかかる」(28.6%)が2割台、「一緒に学習や活動をする仲間がいない」(15.7%)、「興味・関心ももてず、面倒に感じてしまう」(15.0%)が1割台で続いている。

8. 生物多様性について

(1) 言葉の認知状況

問 20 あなたは、「生物多様性」という言葉について知っていましたか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。

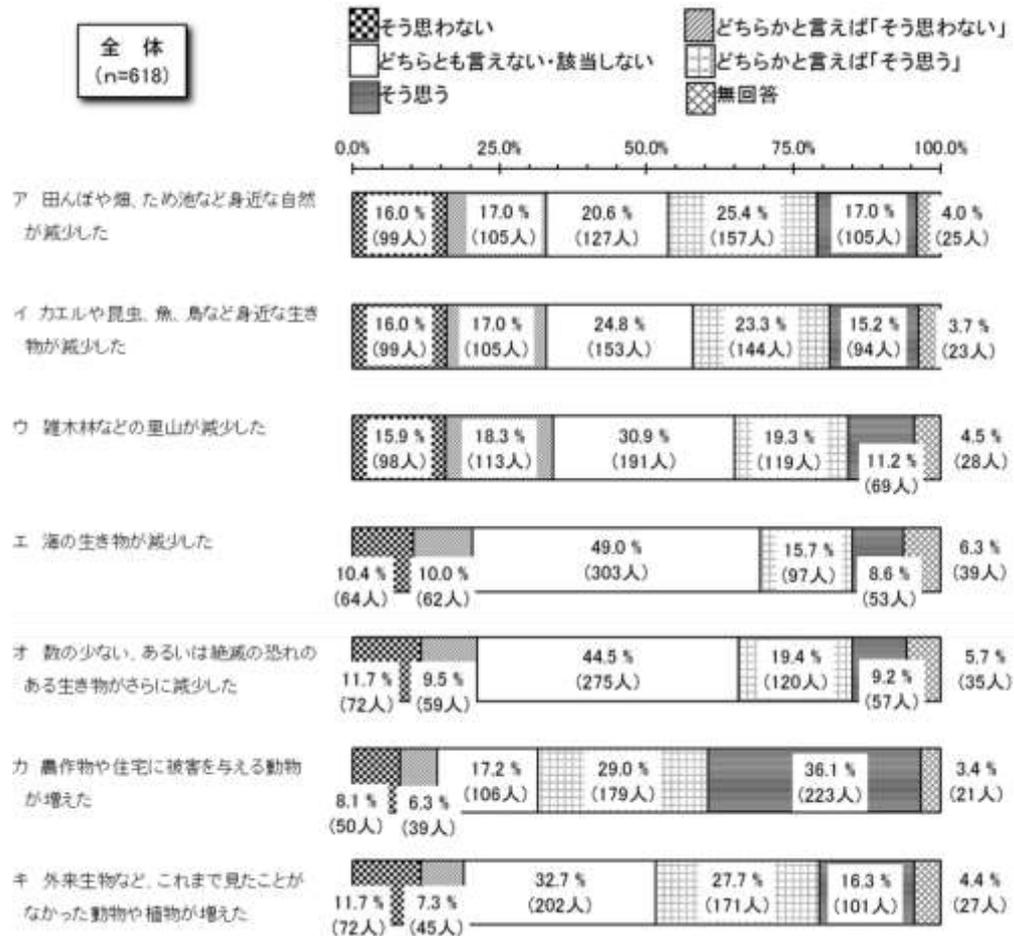


「生物多様性」という言葉の認知状況については、「言葉も意味も知らなかった」(46.0%)が4割強で、「言葉を聞いたことがあったが、意味は知らなかった」(29.9%)が約3割、「言葉も意味も知っていた」(19.7%)が約2割となっている。

(2) 震災前と比較した自然環境の現状

問21 震災前と比較して、あなたの周りの自然環境はどのように変化しましたか。

ア～キについて、それぞれ1～5の中であてはまるもの1つに○をつけてください。



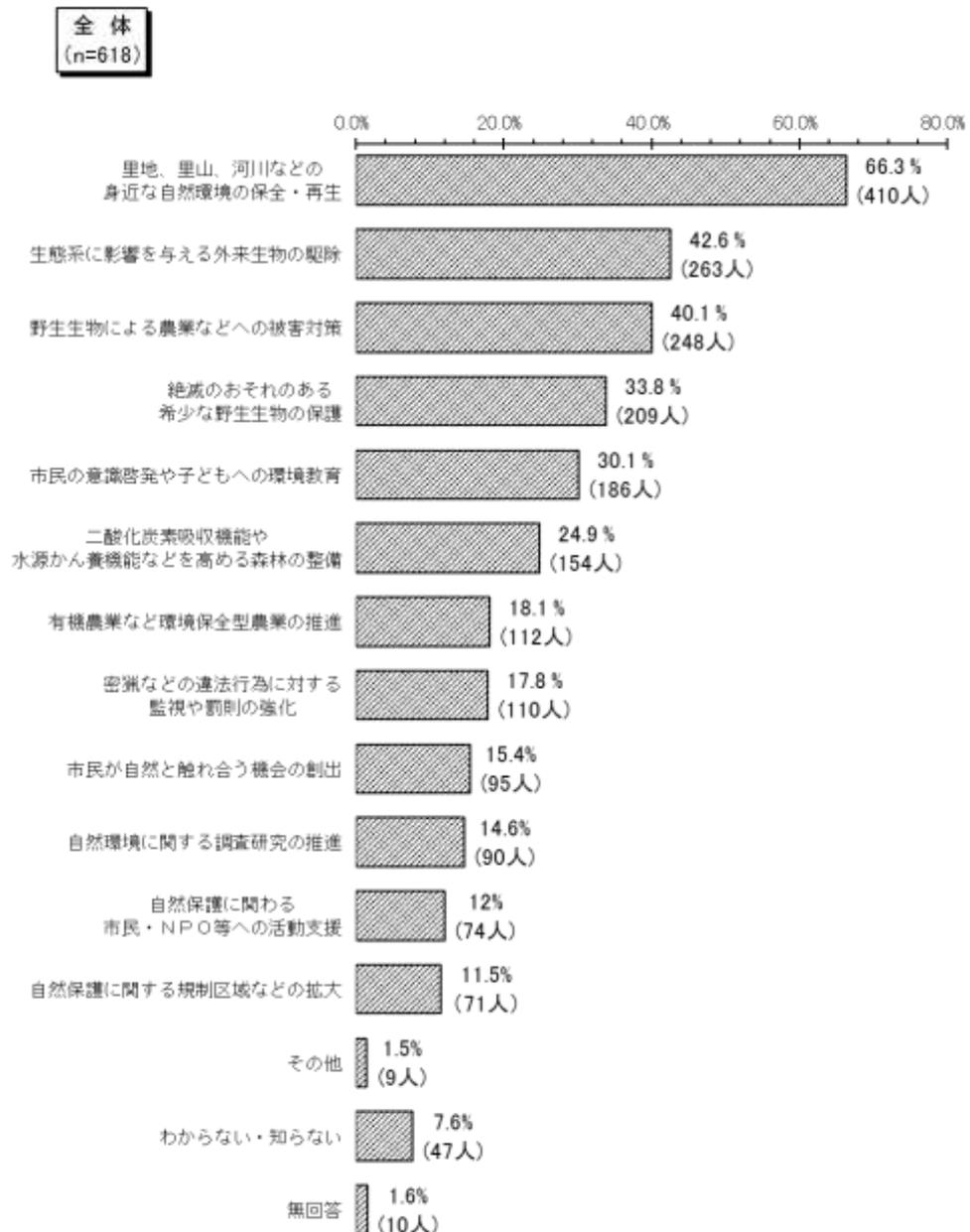
「そう思わない」と回答した人の割合をみると、〈ア 田んぼや畑、ため池など身近な自然が減少した〉と〈イ カエルや昆虫、魚、鳥など身近な生き物が減少した〉（ともに16.0%）の割合が最も高く、以下、〈ウ 雑木林などの里山が減少した〉（15.9%）、〈オ 数の少ない、あるいは絶滅の恐れのある生き物がさらに減少した〉と〈キ 外来生物など、これまで見たことがなかった動物や植物が増えた〉（ともに11.7%）、〈エ 海の生き物が減少した〉（10.4%）が1割台で続いている。

「そう思わない」と「どちらかと言えば“そう思わない”」を合わせた『そう思わない』計の割合をみると、〈ウ 雑木林などの里山が減少した〉（34.1%）が最も高く、次いで、〈ア 田んぼや畑、ため池など身近な自然が減少した〉と〈イ カエルや昆虫、魚、鳥など身近な生き物が減少した〉（ともに33.0%）が3割台となっている。以下、〈オ 数の少ない、あるいは絶滅の恐れのある生き物がさらに減少した〉（21.2%）、〈エ 海の生き物が減少した〉（20.4%）が2割台、〈キ 外来生物など、これまで見たことがなかった動物や植物が増えた〉（18.9%）、〈カ 農作物や住宅に被害を与える動物が増えた〉（14.4%）が1割台で続いている。

一方、「そう思う」と「どちらかと言えば“そう思う”」を合わせた『そう思う』計の割合は、〈カ 農作物や住宅に被害を与える動物が増えた〉（65.0%）が最も高く、6割台となっている。以下、〈キ 外来生物など、これまで見たことがなかった動物や植物が増えた〉（44.0%）、〈ア 田んぼや畑、ため池など身近な自然が減少した〉（42.4%）が4割台、〈イ カエルや昆虫、魚、鳥など身近な生き物が減少した〉（38.5%）、〈ウ 雑木林などの里山が減少した〉（30.4%）が3割台、〈オ 数の少ない、あるいは絶滅の恐れのある生き物がさらに減少した〉（28.6%）、〈エ 海の生き物が減少した〉（24.3%）が2割台で続いている。

(3) 生物多様性の保全や生態系サービスを得るために重要なこと

問 22 生物多様性の保全や、それによる生態系からの豊かな恵み（生態系サービス）を得るために最も重要だと思うことはどれですか。
 あてはまるものにもいくつかでも○をつけてください。（複数回答可）

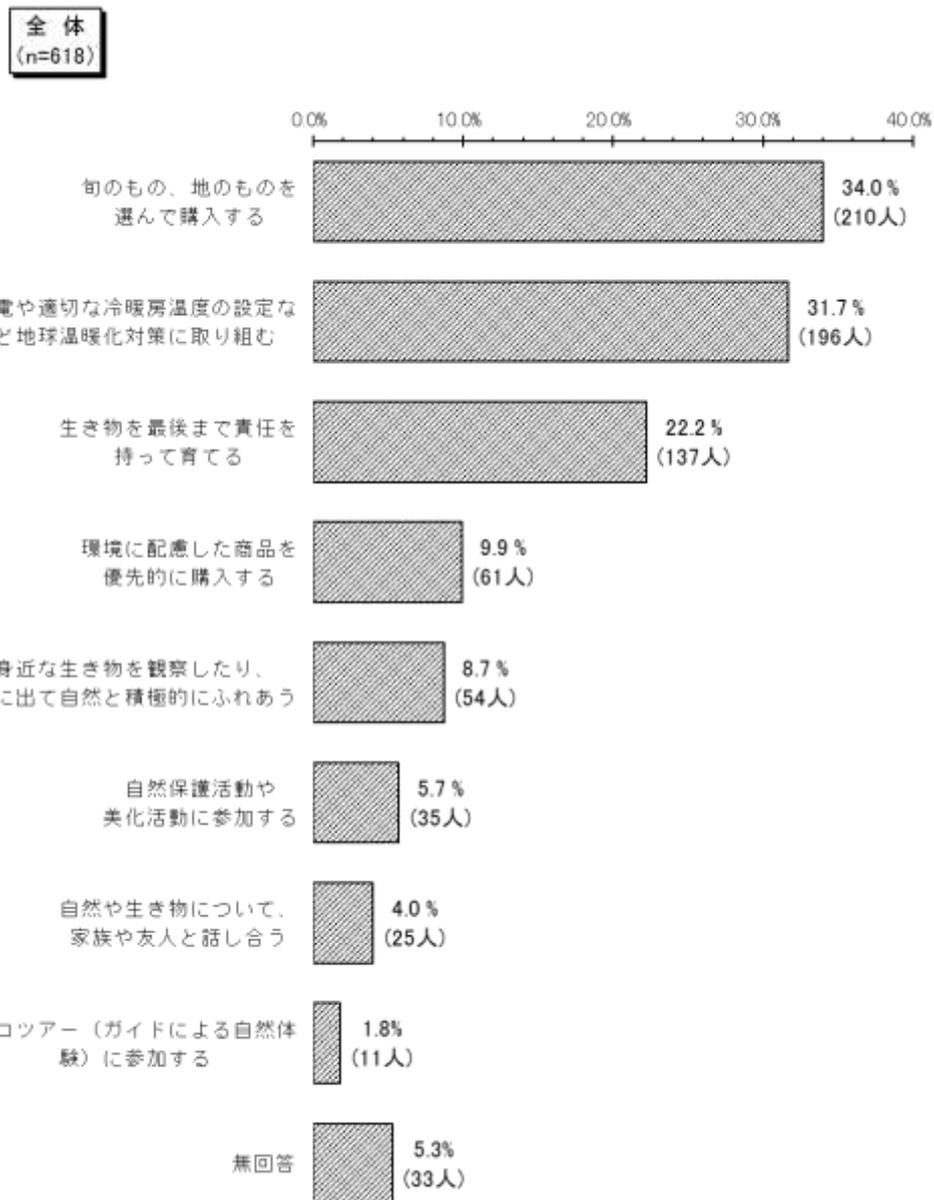


生物多様性の保全や生態系サービスを得るために重要と思うことは、「里地、里山、河川などの身近な自然環境の保全・再生」（66.3%）の割合が最も高く6割台となっている。以下、「生態系に影響を与える外来生物の駆除」（42.6%）、「野生生物による農業などへの被害対策」（40.1%）が4割台、「絶滅のおそれのある希少な野生生物の保護」（33.8%）、「市民の意識啓発や子どもへの環境教育」（30.1%）が3割台、「二酸化炭素吸収機能や水源かん養機能などを高める森林の整備」（24.9%）が2割台となっている。

(4) 生物多様性に配慮したライフスタイルとして行いたいこと

問 23 あなたは、生物多様性に配慮したライフスタイルとして、これからどのようなことを行いたいと思いますか。

あてはまるもの1つに○をつけてください。



生物多様性に配慮したライフスタイルとして行いたいことは、「旬のもの、地のものを選んで購入する」(34.0%)が最も多く、次いで、「節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化対策に取り組む」(31.7%)が3割台となっている。以下、「生き物を最後まで責任を持って育てる」(22.2%)が約2割、「環境に配慮した商品を優先的に購入する」(9.9%)、「身近な生き物を観察したり、外に出て自然と積極的にふれあう」(8.7%)が1割弱で続いている。